

川越市教育委員会第6回定例会会議録

- 1 会議の場所 川越市教育委員会 教育委員会室
- 2 開 会 令和元年8月21日 午前10時
- 3 閉 会 令和元年8月21日 午後1時
- 4 教育長並びに出席した委員 新保正俊、梶川牧子、長谷川 均、黒田弘美、嶋野道弘
- 5 欠席委員 なし
- 6 教育長の職務を行った者 教育長新保正俊
- 7 説明のため出席した者 教育総務部長中沢雅生、学校教育部長中野浩義、教育総務部副部長兼教育財務課長松本和弘、学校教育部副部長兼教育指導課長内野博紀、教育総務部参事兼中央公民館長久津間義雄、学校教育部参事兼学校管理課長梶田英司、学校教育部参事兼教育センター所長横山敦子、教育総務課長若林昭彦、地域教育支援課長福井康司、文化財保護課長田中敦子、中央図書館長鳥海睦美、博物館長大澤 健、学校給食課長鈴木勝行、市立川越高等学校事務長松本陽介、文化スポーツ部長田中三喜雄、文化スポーツ部副部長兼文化芸術振興課長岸野泰之、スポーツ振興課長石川辰生、国際文化交流課長宮寄有子、美術館長岡部秀子、都市景観課長福益周二

8 前回会議録の承認

令和元年度第2回定例会会議録及び第3回定例会会議録を承認した。なお、令和元年度第4回定例会会議録及び第5回臨時会会議録については、現在、調整中であり、次回会議において承認することになった。

9 議題及び議事の概要

日程第1議案第20号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について

(非公開)

日程第2議案第21号 川越市立教育センター条例の一部を改正する条例を定めることについて

(非公開)

日程第3議案第22号 川越市会計年度任用職員である教育職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例を定めることについて

(非公開)

日程第4議案第23号 川越市会計年度任用職員である教育職員の報酬等に関する条例を定めることについて

(非公開)

日程第5議案第24号 川越市学校給食センター運営委員会委員を委嘱することについて

(非公開)

日程第6議案第25号 令和元年度一般会計補正予算(教育委員会所管分)について

(非公開)

日程第7議案第26号 川越市教育委員会職員人事について

(非公開)

10 報告事項

(1) 市内中学校元生徒らによる損害賠償請求事件の経過について

(非公開)

(2) 平成31年度全国学力・学習状況調査及び平成31年度埼玉県学力・学習状況調査の結果について

副部長兼教育指導課長

始めに平成31年4月18日に実施された全国学力・学習状況調査について報告する。今年度の調査は、小学校は国語、算数の2教科、中学校は国語、数学、英語の3教科による悉皆調査で行われた。対象学年は、小学校第6学年と中学校第3学年で、市立小・中学校54校の対象児童生徒5,559人が参加し、1つは、身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能等、もう1つは知識、技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想をたて、実践し、評価、改善する力等に関わる内容の2つを一体的に問う問題で実施された。

本市の平均正答率は、小学校においては国語、算数、いずれも全国平均正答率を下回る結果となっている。昨年度との比較については、小学校は、全国の平均正答率との差が、国語は3.2ポイントから4.8ポイントに開き、算数は4.0ポイントから3.6ポイントに縮んでいる。

本年度の調査から、本市の小学校の状況を分析すると次のような課題が見られる。始めに国語については、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについて、全国の正答率よりも8.2パーセント下回っており、無答率も7.7ポイント高くなっている。目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくことについて、全国の正答率より10.4ポイント下回っている。文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことについて、8.4ポイント下回っており、無答率も5.2ポイント高くなっている。

算数については、2010年の市全体の水の使用量が、1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを棒グラフから読み取って書くことについて、相当数の児童が

できており、全国平均を1.4ポイント上回っている。示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できることについて、全国の正答率より6.2ポイント下回り、無答率は4.0ポイント高くなっている。

次に、中学校の状況であるが、国語は全国平均正答率を上回っているが、数学、英語は全国平均正答率を下回っている。昨年度との比較であるが、中学校においては全国の平均正答率との差は、国語はマイナス0.6ポイントからプラス0.2ポイントと上回ることができ、数学は1.5ポイントから0.8ポイントに縮んでいる。

中学校における教科ごとの課題については、国語では、文章の構成や展開、表現の仕方や、根拠を明確にして自分の考えを持つことについて、多くの生徒ができており、無答率も低くなっている。伝えたい事柄や、根拠を明確にして書くことについて、相当数の生徒ができています。相手にわかりやすく伝わる表現と理解することについて、全国の正答率より2.2ポイント下回っている。

数学については、簡単な場合について確率を求めることへの理解は多くの生徒ができています。資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについて、全国の無答率より0.9ポイント低い。結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し説明することについて、全国の無答率より1.9ポイント高く、正答率は3.6ポイント下回っている。

英語については、家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択することについて、全国の正答率よりも5.3ポイント高い。文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択することについて、全国の正答率よりも4.5ポイント高い。相当数の生徒ができています。与えられた情報に基づいて、三人称単数現在形の肯定文を正確に書くことについて、全国の正答率よりも8.2ポイント下回っている。

本市全体の正答数分布については、小学校、中学校ともに全国とほぼ同程度という状況ではあるが、いずれも正答数の高い児童の数が全国と比較して若干の開きがあることがわかっている。

なお、本調査では、児童生徒に対する質問紙調査も実施されている。このうち、家庭での学習に関する項目については、「平日の家での勉強時間が1時間未満である」と回答した児童生徒の割合は、児童が昨年度と同数の36.3パーセント、生徒は23.4パーセントと昨年度の24.2パーセントよりも0.8パーセント低くなった。また、新聞を読んでいることに関する項目について、小学校では「ほぼ毎日読んでいる」と回答した児童の国語の正答率が69.7パーセント、算数が72.8パーセントの結果に対して、「ほとんど読まない」または「全く読まない」と回答した児童については、国語の正答率が57.2パーセント、算数が61.7パーセントとなっている。

中学校では、「ほぼ毎日読んでいる」と回答した生徒の国語の正答率は76.8パーセント、数学が66.3パーセント、英語が62.2パーセントの結果に対して、「ほとんど読まない」または「全く読まない」と回答した生徒については、国語の正答率が71.6パーセント、数学が57.1パーセント、英語が53.9パーセントとなっている。新聞を読むことと学力に相関関係を見ることができただろうという報道があるが、本市の結果においても同様の関係が見られそうである。効果を上げる具体的な手立てとしては、新聞を読んで気になった記事や写真を1つ切り取る、ノートに貼ってマーカーペンで線を引く、要約や感想、意見を書くなどの活動が代表的な例としてあげられる。

続いて本年4月11日に実施された埼玉県学力・学習状況調査について報告する。本調査は、今年度で5回目の実施となり、小学校第4学年から中学校第3学年までの全児童生徒を対象とし、小学校第4学年から中学校第1学年までが国語と算数・数学の2教科、中学校第2、第3学年については、英語を加えた3教科を実施した。

本市における各学年のレベルを埼玉県の平均と比較すると、3教科ともほぼ埼玉県と同様のレベルを示している。教科・学年別では、中学校第1学年の数学と中学校第3学年の国語、数学が埼玉県より高いレベルを示したのに対し、小学校第4学年及び第5学年の国語が埼玉県より低いレベルを示している。また、学力の伸びについては、埼玉県の平均と比べて小学校第6学年の国語と中学校第1学年の数学、中学校第3学年の国語が県平均より高かった以外は、すべて埼玉県と同様の結果となっている。

次に教科別の概要であるが、国語について、小学校第6学年は領域別の「話す・聞く・書くこと」、観点別の「話す・聞く能力」「書く能力」を除くすべての項目で埼玉県の平均を下回っている。中学校第1学年は観点別の「話す・聞く能力」を除くすべての項目で埼玉県の平均を下回っている。中学校第2学年は領域別の「話す・聞く・書くこと」、観点別の「書く能力」を除くすべての項目で上回っており、中学校第3学年はすべての項目で上回っている。

算数、数学については、小学校では第4学年の領域別の「図形」「数量関係」を除くすべての項目で下回っている。中学校では、第1学年の領域別の「量と測定」「数量関係」、第3学年の領域別の「関数」が若干下回っているが、他は概ね上回っている。

英語については、中学校第2学年の領域別の「書くこと」、中学校第3学年の領域別の「読むこと」を除くすべての項目で若干下回っている。

次に、児童生徒対象質問紙調査結果における、「規律ある態度」達成目標においては、ほとんどの項目が目標の80パーセントを超えているが、小学校第5、第6学年の「あいさつ」と小学校第5学年から中学校第3学年における「話を聞き発表をする」項目については、埼玉県同様80パーセントを下回る数値となっている。

また「勉強をする理由」、「自分や地域に関すること」、「授業に関すること」、「読書に関すること」の4つの観点については、ほとんどの項目が埼玉県の平均を上回っている。特に「今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心を持っている」の項目については、すべての学年で埼玉県平均を上回った。課題としては、「グループで活動するときに、1人の考えだけでなく、みんなで考えを出し合って課題を解決すること」、「授業で課題を解決するときに、みんなで色々な考えを発表すること」の2つの項目について、埼玉県の平均より下回っている学年があることである。課題解決に向けた話し合い活動の充実が今後、必要であると考えている。

両調査を終え、今後は、各学校において自校の調査結果を分析して課題を明確にし、それに基づいた学力向上の対策を行うために、各校長は「学力向上の重点課題と改善策」のシートを作成し、夏季休業中の校内研修等において、そのシートの内容を周知徹底するよう伝えている。各校では2学期から改善策を具体的な実践の取組としてスタートさせることとなっている。教育委員会においては、校種間連携担当が各校の状況を分析し、訪問や人事評価面談の際に今後の取組等について確認をしていきたいと考えている。また、小・中学校全校の管理職及び学力向上担当教諭を対象とした学力向上の研修会を8月29日に実施する予定である。さらに、課題となった国語を中心に、授業等の取組のほか、「学びに向かう力」を育成する具体的な手立てを構築していきたいと考えている。また、本年度も引き続き、家庭学習の充実について、学力向上研究委員会の授業研究部会において、「家庭学習の充実に向けて」の授業研究会を行っている。授業研究会の成果を各学校に広め、共有するとともに活用することで、効果的で成果のあがる家庭学習の推進を図りたいと考えている。

委員

課題となる部分は毎年異なるのか、それとも同じような項目が課題となっているのか伺いたい。

副部長兼教育指導課長

学年によって違いはあると考えているが、ここ数年、国語に課題があると感じている。

委員

新聞を活用した取組は効果があるのではないかと考える。課題となっている点「ときもドリル」等に組み込むなどの工夫はできるのか伺いたい。

副部長兼教育指導課長

新聞はいろいろ活用できると考えているが、新聞を取らない家庭も増えていると聞いている。新聞に限らず、読書など活字を追う、文章を読み解く、ということが苦手な児童生徒が多い印象を持っている。できていないところを分析し、具体的な取組ができるようにしていきたい。

委員

小学校の国語の正答数分布グラフを見ると、全国と埼玉県に比べ本市では、2問から5問の正答数が少ない層が多く、12問から14問の正答数の多い層が少ない。これは、全体的に低いということで、全体的な底上げが必要であると考え。加えて、無答率も高い、となると、出題された問題が理解できないから答えられないのではないかと考える。領域等別平均正答率の表からも、小学校第4学年と第5学年の「話すこと・聞くこと・書くこと」の領域の正答率が非常に低いことがわかる。基礎的な部分ができているということになると対応策がまったく変わってくるのではないかと。また、質問紙調査の「勉強する理由」として「勉強することが楽しい、好きだから」と答えている児童の割合は県よりも高い。勉強は嫌いではない、でも学力はあがらない、となると教え方に問題があるように見えてしまう。これを教職員はどう捉えているのか。分析結果から見ると限りでは、家庭学習をどうするか以前の問題で、基本的なところができていない、そこが出発点ではないかと考える。

もう1点、わからないのが、中学生の結果を見ると全国平均、県平均とあまり差がない点である。これは、極端な話をすると、小学生の時に学力が低くても、中学生になれば全国平均ぐらいにはなる、という見方もできる。もし、小学生の学力を底上げした場合、中学生になったときに結果はさらにあがると考えているか、その点について伺いたい。

副部長兼教育指導課長 児童生徒がそれぞれ持っている力を高めた結果であると考え。埼玉県も個々の「伸び」を重視しているため、その時々に応じた学びを指導していく中で、中学校を卒業する時点ではその生徒が9年間を通してしっかりと学んで力をつけたというところにもっていきたい。個人としての「伸び」を保証したい。無答率には問題が理解できないという学力的な部分と、学ぶ姿勢も関係していると考え。最後まで粘り強く取り組む姿勢を育てることと、並行して、新聞や本など、読み飛ばさずに、活字をしっかりと追って読み取る、そうした基本的なところを育てていく必要があると考えている。

委員

教職員はこの学力学習状況調査の結果をどのように認識しているのか伺いたい。

副部長兼教育指導課長

教職員の認識については様々であると捉えている。ただこれからは、このような学力調査において結果を出すことが求められる。教職員の力量も問われることから、認識を深めていく必要がある。

委員

学力学習状況調査の結果に対しての教職員の評価はどのようになっているのか伺いたい。

副部長兼教育指導課長

直接、評価に結び付くわけではないが、児童生徒の伸びが大きかった教員の授業

については、県が授業の様子を撮影し、データベース化して県内で共有する取組が始まっている。

委員

全国学力学習状況調査において、初めて英語が実施されたが、4技能のうちの「話す」については、パソコンの台数が不足したり、不具合が生じたりして、実施できなかった学校があると報じられていた。本市の状況について確認したい。

副部長兼教育指導課長

実施が可能かどうか事前に調査したところ、本市では正常に稼働しなかったため、英語の「話す」調査は実施していない。パソコンのスペック上は問題はなかったが、ソフトウェアとタブレットの相性が合わなかったのか、正常稼働しなかった原因は不明である。後日、代替措置となる類似調査を実施したところである。

委員

学力学習状況調査の結果をどう読み取ったかが重要である。分析の結果を見ると、活用力に課題が多いと感じるが、この分析だけでは施策を練ることはできない。質問紙調査における授業に関する項目を見ると、すべて県の数値より低くなっている。これは教職員が結果ばかりを気にしており、きめ細やかな授業を行っていないということである。児童生徒が充実した授業を実感していない。結果に行きつかなくても、児童生徒がどこまでどのように考えたかを聞く、それだけで授業は変わってくる。授業改善が最も重要であると考えます。

教育長

学力学習状況調査の結果については、さらに踏み込んだ分析をしなければならない。危機感を持って対応してもらいたい。

(3) 川越市学校施設使用料条例の一部改正を見送ることについて

(非公開)

1 1 その他

- (1) 議事に先立ち教育長から、議案第20号から23号、議案第25号及び報告事項は市議会議決事項、議案第24号及び議案第26号は人事に関する情報、報告事項は個人に関する情報であることから、審議に係る会議を公開しないこととする動議が提出され、全出席委員がこの動議に賛成し、当該審議については非公開として取扱うことに決定した。

また、議案第20号の次に報告事項を行い、議案第26号についてはその他終了後に関係理事者（教育総務部長、学校教育部長、教育総務課長）のみによる審議とすることについて、各委員が承認し、日程を変更することになった。

- (2) 議案第20号の関係者として、文化スポーツ部長、文化スポーツ部副部長兼文化芸術振興課長、スポーツ振興課長、国際文化交流課長、美術館長及び都市景観課長の出席について、報告事項の関係者としてスポーツ振興課長の出席について、各委員が承

認し出席が認められた。

- (3) 会議録署名委員として、長谷川委員、嶋野委員が指名された。
- (4) 次回教育委員会は、令和元年9月26日（木）午前10時開催に決定した。